

平成 27 年度「立正大学研究推進・地域連携センター研究支援費」研究成果報告書

1. 種目 第 1 種

2. 研究課題名 ウズベキスタン、スルハンダリヤ周辺地域における前 2～後 7 世紀の宗教・都市遺跡に関する歴史考古学的調査

3. 研究代表者

研究代表者名		所属部局名	職名
やすだ	はるき	仏教学部仏教学科	教授
安田	治樹		

4. 連携研究者

連携研究者名		所属部局名	職名
いけがみ	さとる	文学部史学科	教授
池上	悟		
てじま	いっしん	仏教学部仏教学科	教授
手島	一真		
いわもと	あつし	文学部史学科	専任講師
岩本	篤志		

5. 研究実績の概要

当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、申請書に記載した「研究目的」、「研究計画・方法」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述して下さい。

本研究は、「ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州テルメズ西郊カラ・テパ仏教伽藍址北丘コンプレックスの発掘と出土遺物の整理調査・修復保存処理、調査概報并に研究報告書の公刊、及び研究者の相互交流促進とし、もってインド・イラン混成文化圏を形成する当該地域の、主としてグレコ・バクトリア時代からクシャーン時代に渡る仏教その他の宗教の流通状況、ないし歴史文化の諸相解明に資する」ことを主目的とする。これに従い2014年8月に本学と同国科学アカデミー芸術学研究所との間で学術協定書を交換し、同月下旬から9月下旬の1ヶ月の間、隊長安田治樹、副隊長池上悟、隊員手島一真、同岩本篤志、顧問加藤九祚、監修古庄浩明の6名からなる「第一次立正大学ウズベキスタン学術調査隊」を組織し、カラ・テパ北丘コンプレックスで発掘を実施するとともに、関連する遺跡、博物館等において実地調査を行なった。

第二次となる2015年度は、8月下旬から9月下旬の1ヶ月の間副隊長池上悟主導の下、前年度の隊員にさらに則武海源、委嘱隊員に本間岳人、池田奈緒子、足立佳代、犬竹和を加えた10名により、カラ・テパ北丘コンプレックスの継続発掘を行なった。発掘の結果、北丘僧院西側の回廊部は北端が西側に直角に屈曲していることが判明し、西側区域にさらに別の僧院が存在する可能性が示唆されたほか、掘削過程で石灰岩製の人物像頭部、ガルーダ像頭部、同脚部、建築部材他のそれぞれ残欠、貨幣を含む小型青銅製遺物、墨書銘ある土器片等を採取し、それぞれ採寸・撮影・作図等の必要な作業を行なった。

なお当年度は、9月に本学とテルメズ考古学博物館及び国立テルメズ大学との間にも、ズルマラ仏塔の調査・保存とスルハンダリヤ州内の仏教遺跡調査に関する学術協定を締結し、爾後の現地における研究調査の体制強化をはかった。2015年度第二次調査の調査日誌および発掘・出土物の概要は『カラ・テパ遺跡 -2015年度調査概要報告書-』（立正大学ウズベキスタン学術調査隊編、2016年3月25日発行）所載。

6. 研究発表（平成 27 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ ）件 うち査読付論文 計（ ）件

著者名	論文標題				
手島 一真	仏教東伝の一道程				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
カラ・テパ遺跡 -2015年度調査概要報告書-	無		2 0 1 6	63 - 71	

著者名	論文標題				
岩本 篤志	北部バクトリアの古代遺跡の概観				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
カラ・テパ遺跡 -2015年度調査概要報告書-	無		2 0 1 6	44 - 62	

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	

〔学会発表〕 計（ ）件 うち招待講演 計（ ）件

発表者名	発表標題		
岩本 篤志	2015年度ウズベキスタン調査概要報告		
学会等名	発表年月日	発表場所	
カラ・テパ遺跡第二次発掘調査概要報告会	2016年2月26日	立正大学品川キャンパス	

〔図書〕 計（ ）件

著者名	出版社		
立正大学ウズベキスタン学術調査隊編	立正大学		
書名	発行年	総ページ数	
カラ・テパ遺跡 -2015年度調査概要報告書-	2 0 1 6	78頁 図版24頁	

研究補助を受けた方は、「研究成果報告書」を提出していただき、ホームページ等で研究成果を公開いたします。研究成果が公開できない事情がある場合には、その理由を記述して下さい。

※研究成果を公開できない理由

--